

第6次小田原市総合計画 市民意識調査報告書

<概要版>

2021年9月30日

小田原市





目次

- ◇ 調査概要 2
- ◇ 設問項目について 3
- A 回答者ご自身について 4
- B 小田原市に対して持つイメージ 5
 - ・どのような人が住みにくいと感じているか
 - ・小田原市から転居したいと考える理由
 - ・年齢・就業有無による若者活躍実感の違い
 - ・性別・就業状況による女性活躍実感の違い
 - ・総合計画や2030ロードマップの認知度
- C 小田原市の施策に対する満足度・重要度 10
 - ・施策の満足度・重要度のプロット図
 - ・満足度・重要度の上位・下位5項目
- D あなたの暮らし（各施策）について 12
 - ・医療に対する安心感
 - ・医療に対するニーズ
 - ・子育て支援に対する満足度
 - ・子育て環境に求められるもの
 - ・ワーク・ライフ・バランスの向上について
 - ・自然環境への満足度
 - ・再生可能エネルギー施策について
 - ・公民連携に対する意識
 - ・行政サービスのデジタル化
- E 市民の幸福感について 21
- ◇ その他の分析 22
 - ・地域別にみた交通の便に対する意見
 - ・橋地域の住民が他の地域に比べて不便に感じている点
 - ・居住意向に関する分析について

◇ 調査概要

- 調査対象：住民基本台帳に記載されている18歳以上の市民3,000名
(無作為で抽出)
- 調査期間：令和3年5月25日(火)～令和3年6月9日(水)
- 調査方法：調査票を郵送後、郵便およびオンラインで回収。
- 配布・回収：

配布数	回収数			回収率
	計	郵送	ウェブ	
3,000票	1,646票	1,265票	381票	54.90%

- 概要版は、アンケート集計結果から一部の内容を抜粋したものです。アンケートの全容は報告書にて取りまとめます。
- アンケート回答結果の分析は国立大学法人弘前大学地域社会研究科及び人文社会科学部に委託しております。

<参考>

- ✓ アンケートについては、回答の信頼性を高めるための配布数を設定しています。下表は、本市の人口をあてはめた場合の、統計学上必要とされる「信頼度」と「誤差」ごとに必要な回収数です。
- ✓ 国の統計調査基準で求められる回収数は、「信頼度95%、誤差5%」です。今回の配布数及び回収率は「信頼度95%、誤差3%」を超えているため高い信頼性を確保できる調査であると言えます。

	90%	95%	99%
誤差 3%	753	1,061	1,831
誤差 5%	271	383	663
誤差 10%	68	95	166

今回の調査は、この回収数を超えています
国の統計調査基準で求められる回収数

◇ 設問項目について〈全53問〉

A : あなたご自身について教えてください〈11問〉

性別、年齢、家族構成、住まいの地域居住歴など

B : あなたが小田原市に対して持つイメージを教えてください〈7問〉

市への愛着、居住継続希望およびその理由、若者・女性活躍に関する市民の意識、総合計画の認知度など

C : 小田原市のまちづくりに対する満足度と、重要度について教えてください〈1問〉

現在小田原市が取り組んでいる施策を30に分類し、それぞれの満足度、重要度を調査

D : あなたの暮らしについて教えてください〈31問〉

医療・福祉、健康、子育て・教育、働き方・経済、自然環境・エネルギー、公民連携、デジタル化に関する内容

E : あなたの幸福感について教えてください〈2問〉

自身の幸福度および、判断基準について

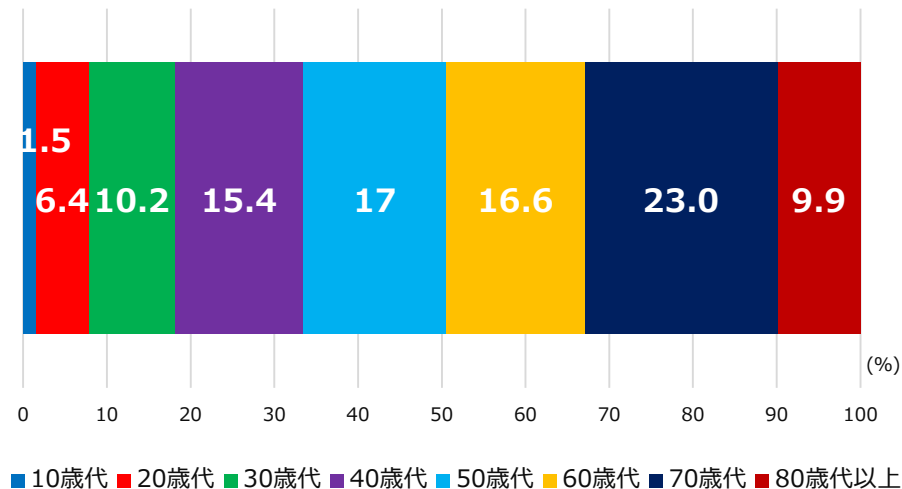
F : あなたの考えを教えてください〈1問〉

まちづくり全般に関する自由記述

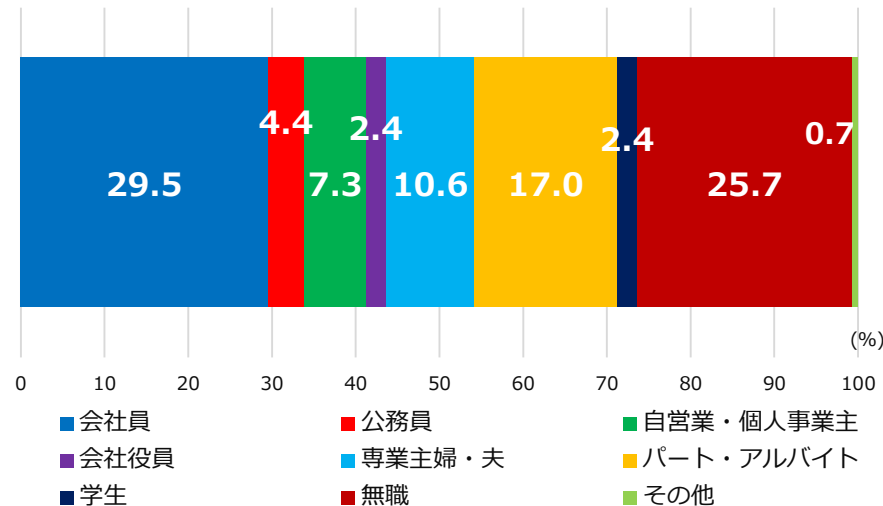
A 回答者ご自身について



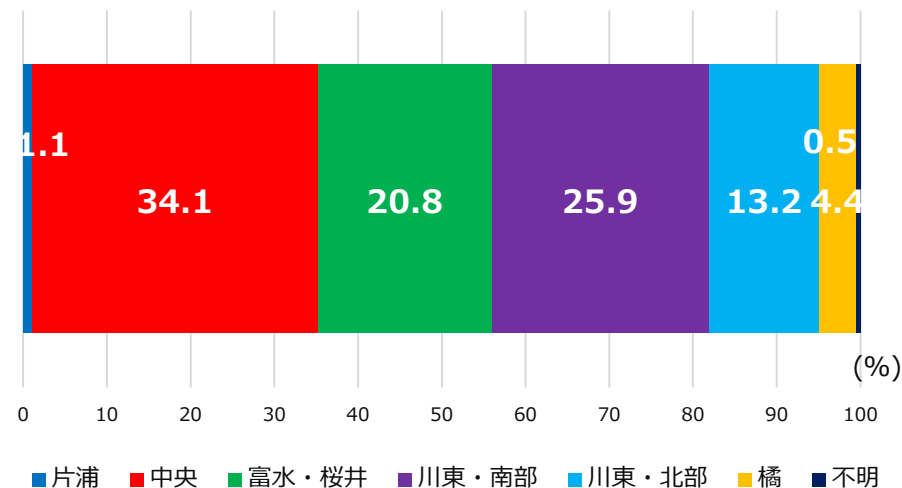
年齢区分



就業状況



居住地域



回答者は、10-30歳代が18.1%、40-50歳代が32.4%、60歳代以上が49.5%と、やや高齢層に偏っています。

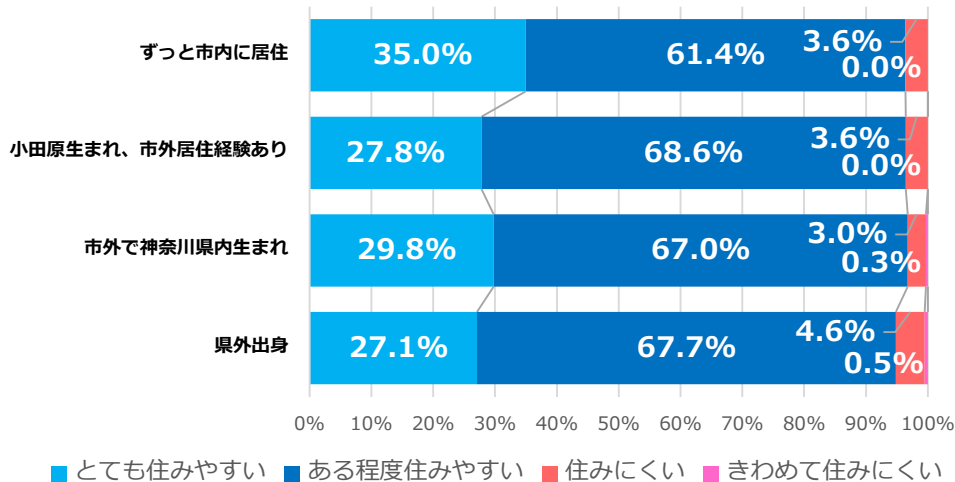
就業状況は、無職が25.7%を占めますが、会社員も29.5%、パート・アルバイトも17.0%を占めています。

居住地域では中央地域が34.1%、川東南部が25.9%、富水・桜井が20.8%となり、市全体の人口割合と回答割合ではそれほど偏りが見られません。

B 小田原市に対して持つイメージ

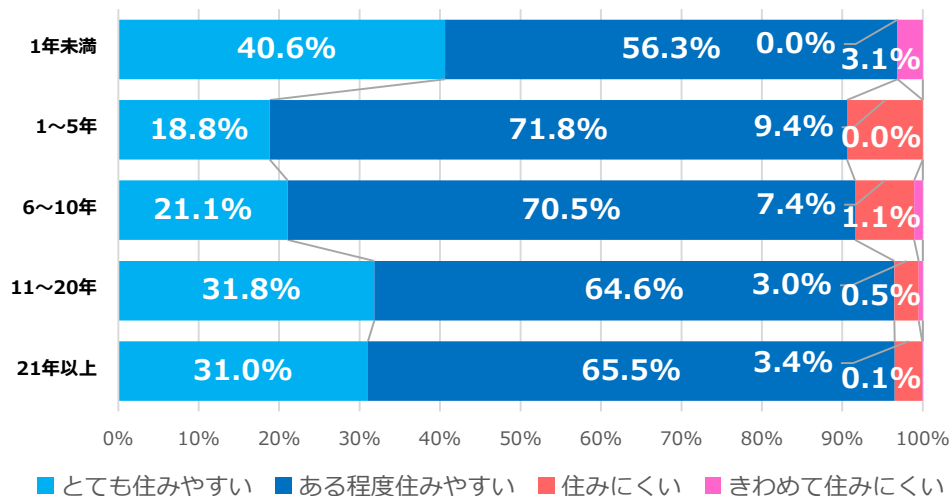
どのような人が住みにくいと感じているか

「小田原市は住みやすいまちですか」（居住歴ごと）



「小田原市は住みやすいまちですか」について、居住歴からみると、県外出身の方は、他の属性に比べて「住みにくい」の割合が1ポイントほど高くなっています。

「小田原市は住みやすいまちですか」（居住年数ごと）



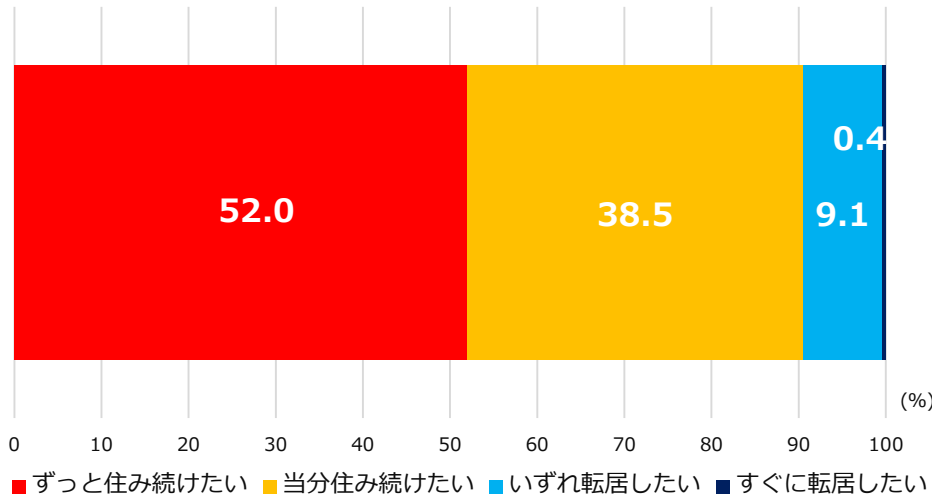
また、居住年数ごとにみると、11年以上住み続けている人は「とても住みやすい」、「ある程度住みやすい」の割合が高い一方で、居住年数が1～10年の人は「住みにくい」の割合が高くなっています。

B 小田原市に対して持つイメージ

小田原市から転居したいと考える理由

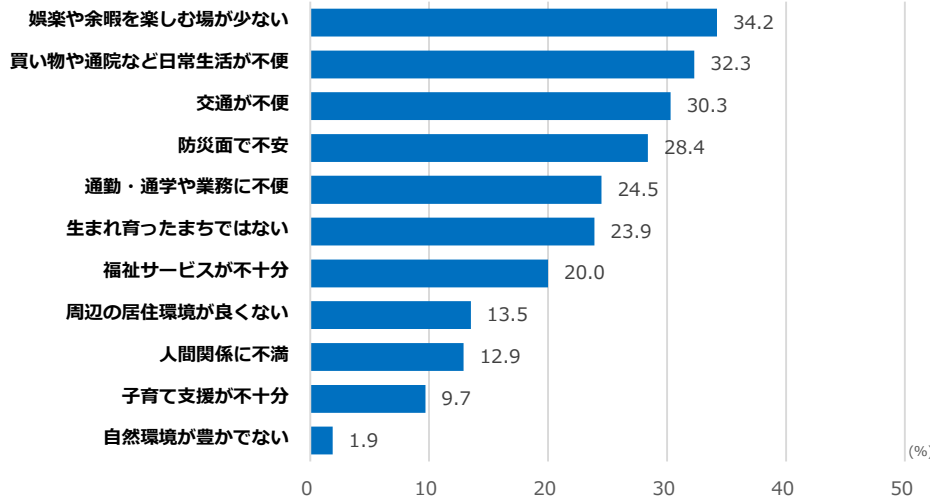
今後も小田原市に住み続けたいですか

n = 1,597



転居したい理由

n = 155



今後も小田原市に住み続けたいと思うかどうかについて、9割の人が住み続けたいと答え、1割の人は転居したいと答えました。転居したいと答えた人の属性としては20歳代、未婚者、学生、居住年数1～5年、世帯収入1001～1200万円と答えた人が多数でした。

転居したいと答えた人に対して、その理由を聞くと、「娯楽や余暇を楽しむ場が少ない」と答えた人が最も多いです。

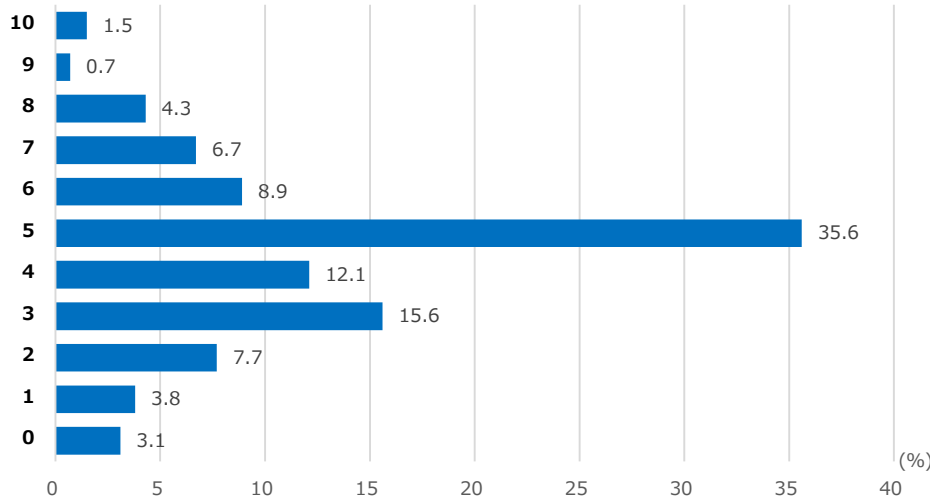
また、同居家族に関する設問とのクロス集計では、「2世代同居（あなたと子供）」や、「3世代同居」と答えた人の割合が多く、子どもがいる世帯が娯楽や余暇を楽しむ場を居住自治体に求めていることが読み取れます。

B 小田原市に対して持つイメージ

年齢・就業有無による若者活躍実感の違い

小田原市は若者が活躍しやすいまちだと思いますか

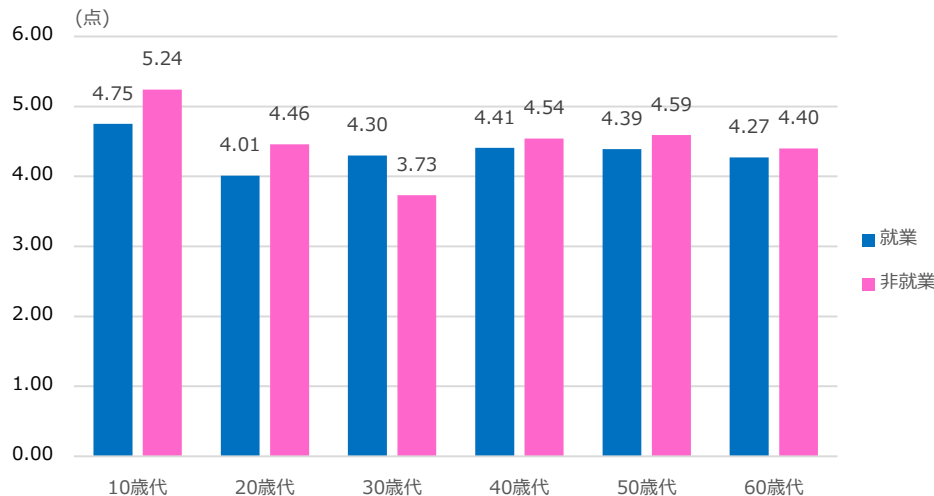
n = 1,483



「小田原市は若者が活躍しやすいまちだと思いますか」について、「活躍できると思う」に該当する7～10点と答えた人は全体の約1割、反対に「活躍できないと思う」に該当する0～3点と答えた人は全体の約3割でした。

このことから、若者活躍について、全体的に低い評価をされているということが読み取れます。

若者活躍にかかる年齢・就業別の平均点



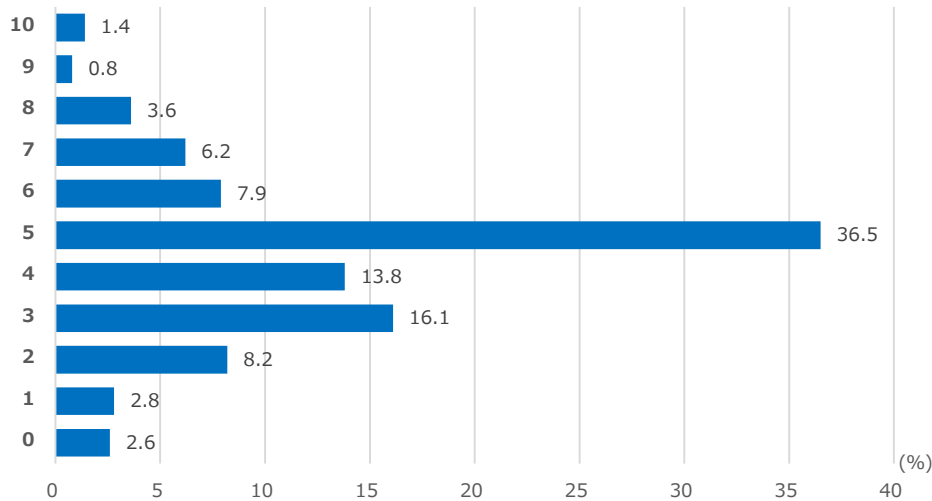
年齢別の平均点を比較すると、30歳代、20歳代の順に低く、この世代で若者活躍を実感できていません。さらに、就業有無別にみると、30歳代のみ非就業者の方が平均点が低く、30歳代では就業できないことで若者活躍が実感しにくくなっています。逆に、20歳代をはじめ他の世代では就業者の方が平均点が低いことから、就業するなかで若者活躍が実感しにくくなっています。

B 小田原市に対して持つイメージ

性別・就業状況による女性活躍実感の違い

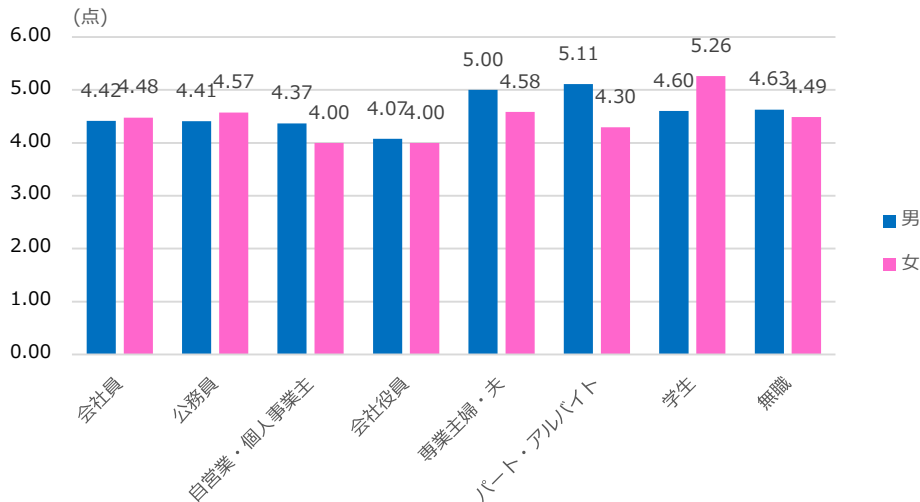
小田原市は女性が活躍しやすいまちだと思いますか

n = 1,493



「小田原市は女性が活躍しやすいまちだと思うか」について、「活躍できると思う」に該当する7～10点と答えた人は全体の約1割、「活躍できないと思う」に該当する0～3点と答えた人は全体の約3割で、女性活躍についても全体的に低い評価をされているということが読み取れます。

女性活躍にかかる性別・就業状況別の平均点



性別・就業状況別にみると、自営業・個人事業主で0.37点分、専業主婦・夫では0.42点分、パート・アルバイトでは0.81点分、女性のほうが平均点が低くなっています。

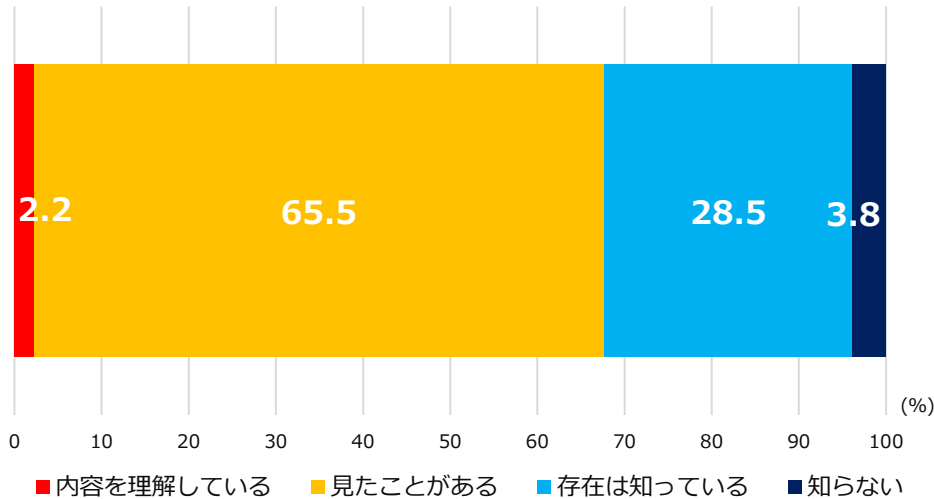
女性の方が、女性活躍の実感の機会が少ないと考えられます。これらのような立場の女性に対して、活躍を実感できる場を提供する必要性が推測できます。

B 小田原市に対して持つイメージ

総合計画や2030ロードマップの認知度

小田原市の総合計画を知っていますか

n = 1,416

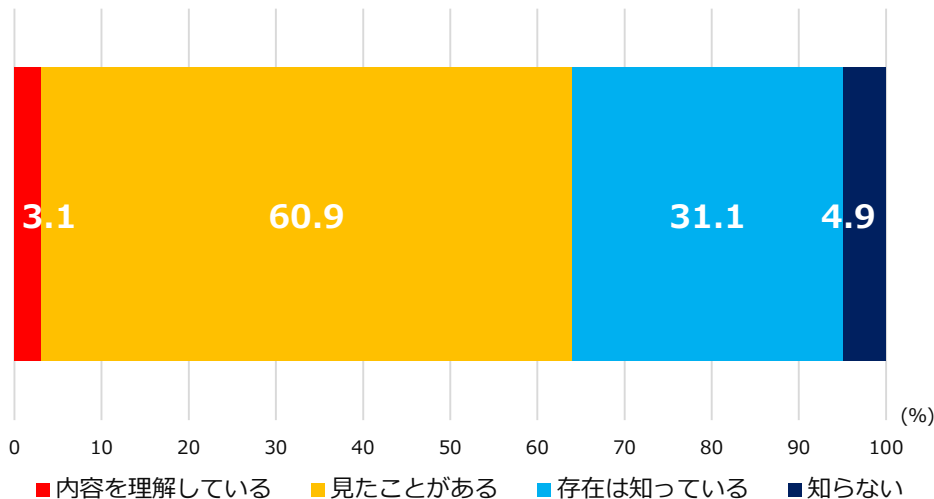


総合計画の認知度について、「内容を理解している」人は2.2%ですが、「見たことがある」が65.5%、「存在は知っている」28.5%と、認知度は高いことがうかがえます。

属性別に見たときの回答者の特徴は特にみられませんでした。

2030ロードマップを知っていますか

n = 1,463

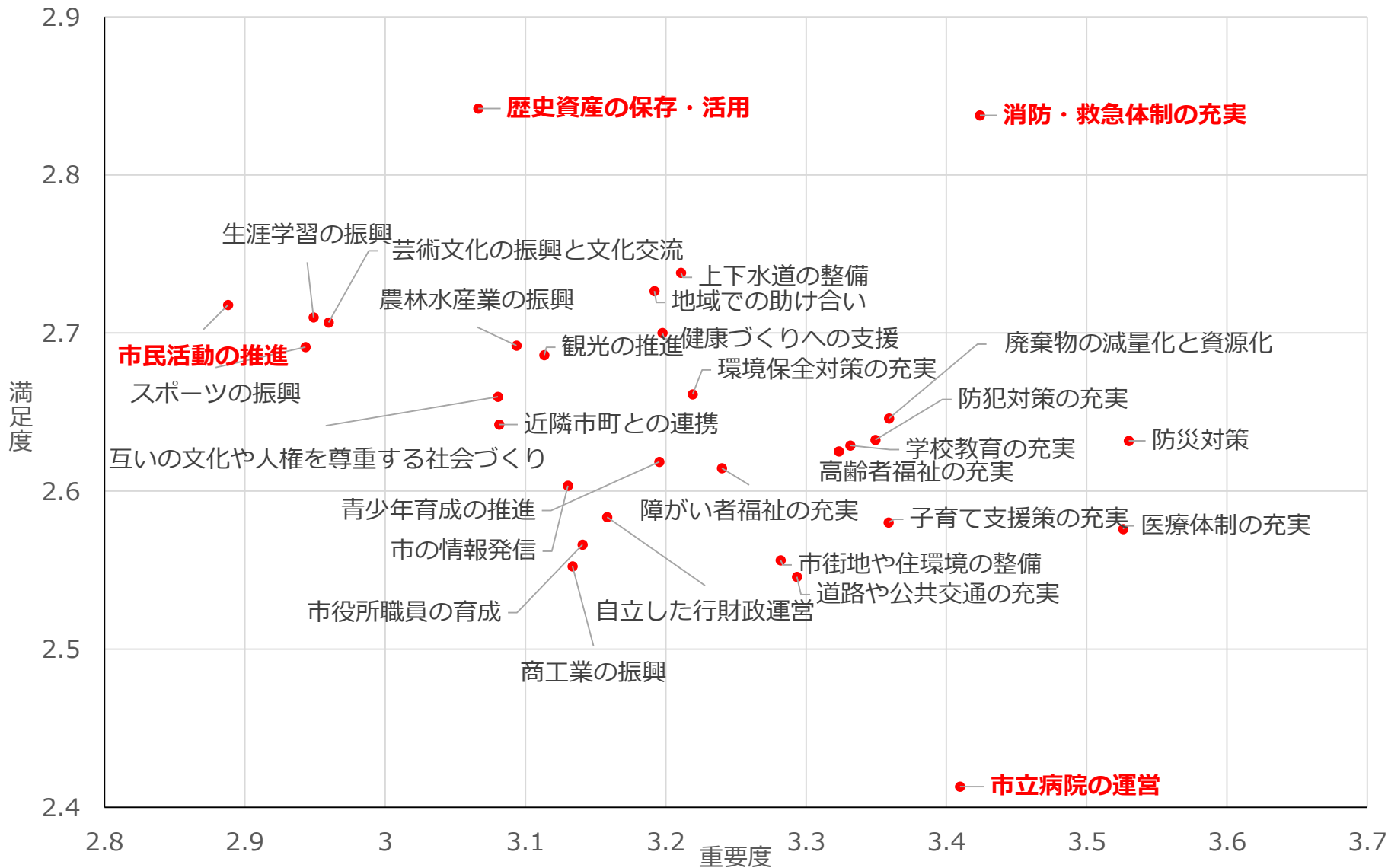


「2030ロードマップ」の認知度について、知っている人は9割を超えています。

問45の回答結果より、回答者の約7割は、広報紙から市の情報を得ていることわかっているため、広報令和3年5月号で、2030ロードマップについて紹介したことが、認知度の向上につながっていることが推測されます。

C 小田原市の施策に対する満足度・重要度

施策の満足度・重要度のプロット図



C 小田原市の施策に対する満足度・重要度

満足度・重要度の上位・下位5項目

【満足度】

上位5項目	歴史資産の保存・活用	2.842
	消防・救急体制の充実	2.838
	上下水道の整備	2.738
	地域での助け合い	2.727
	市民活動の推進	2.718

2

下位5項目	市役所職員の育成	2.566
	市街地や住環境の整備	2.556
	商工業の振興	2.552
	道路や公共交通の充実	2.546
	市立病院の運営	2.413

【重要度】

上位5項目	防災対策	3.530
	医療体制の充実	3.526
	消防・救急体制の充実	3.424
	市立病院の運営	3.410
	廃棄物の減量化と資源化	3.359

2

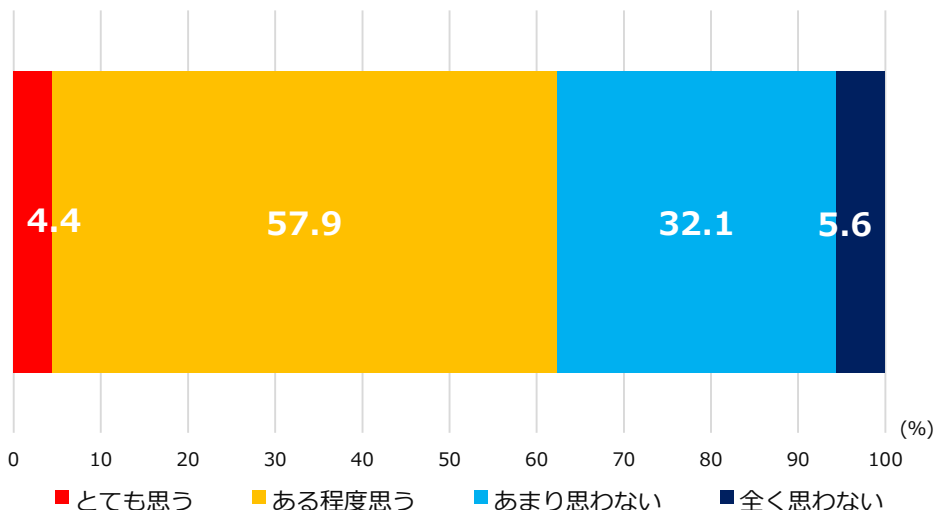
下位5項目	歴史資産の保存・活用	3.066
	芸術文化の振興と文化交流	2.960
	生涯学習の振興	2.949
	スポーツの振興	2.943
	市民活動の推進	2.888

満足度・重要度がともに高いものに「**消防・救急体制の充実**」、満足度は高く重要度が低いものに「**市民活動の推進**」や「**歴史資産の保存・活用**」、満足度が低く重要度は高いものに「**市立病院の運営**」が挙げられます。

医療に対する安心感

24時間365日安心して医療が受けられますか

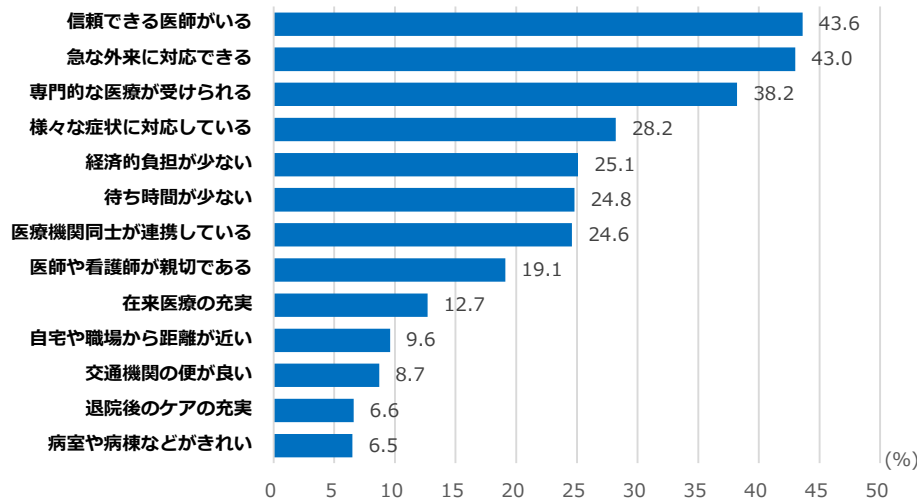
n = 1,572



「小田原市は24時間365日安心して医療が受けられる体制が整っているかどうか」について、「ある程度思う」が57.9%で最も高く、次いで「あまり思わない」(32.1%)、「全く思わない」(5.6%)と続いており、約4割は安心して医療が受けられないと思っています。

どういったことが充実すれば安心できますか

n = 1,583



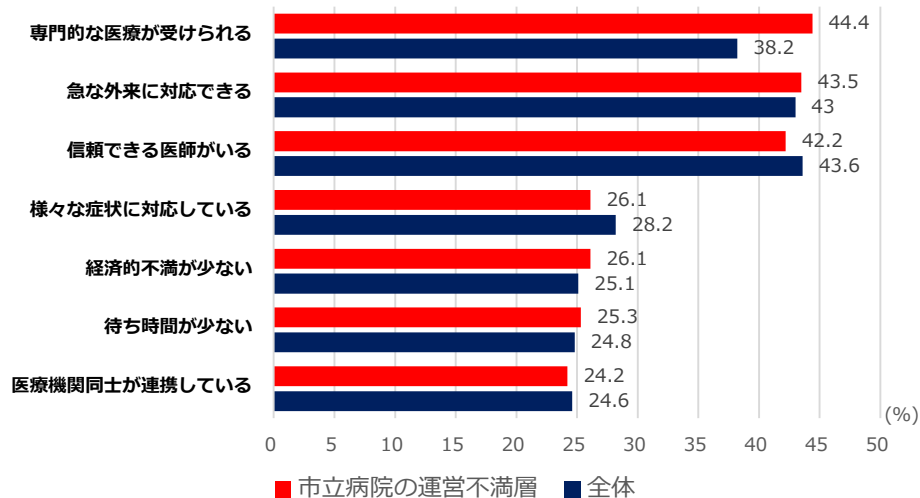
「どういったことが充実すれば、小田原市の医療がもっと安心できるか」について、「信頼できる医師がいる」が43.6%で最も高く、次いで「急な外来に対応できる」(43.0%)、「専門的な医療が受けられる」(38.2%)と続いていきます。

D あなたの暮らし（各施策）について

医療に対するニーズ

市立病院運営不満層が医療充実に求めるもの

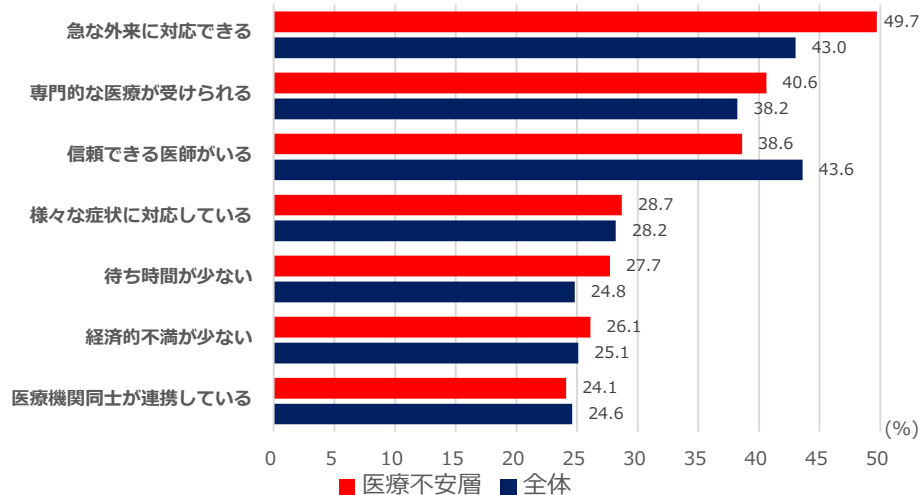
n = 372



問19の各施策に対する満足度・重要度調査「市立病院の運営」の問いに対して、不満で重要であると答えた人（市立病院の運営不満層）は、「専門的な医療が受けられる」や、「急な外来に対応できる」を望んでおり、全体ニーズと差異はありませんが、「専門的な医療が受けられる」について特に望んでいることがわかります。

医療不満層が医療充実に求めるもの

n = 593



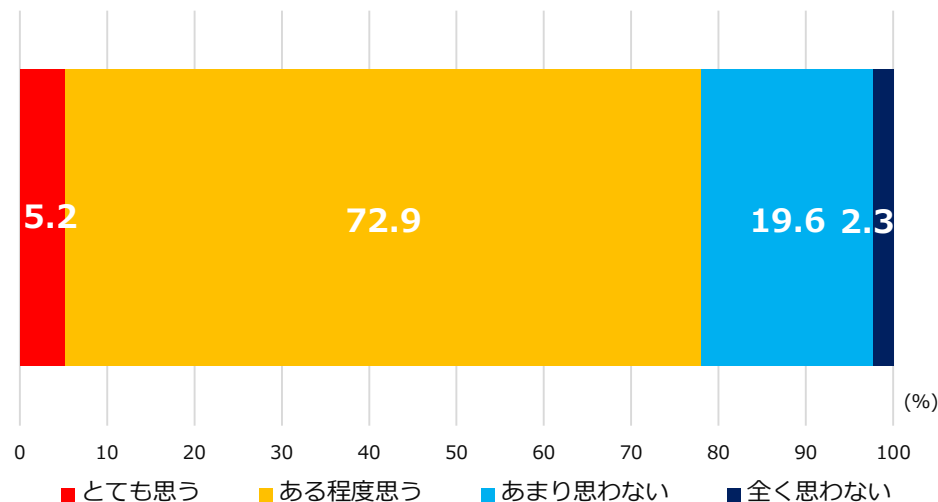
「24時間365日安心して医療が受けられるか」に対し、「あまり思わない」、「全く思わない」と答えた人（医療不安層）は、特に「急な外来に対応出来る」ことを望んでいます。

D あなたの暮らし（各施策）について

子育て支援に対する満足度

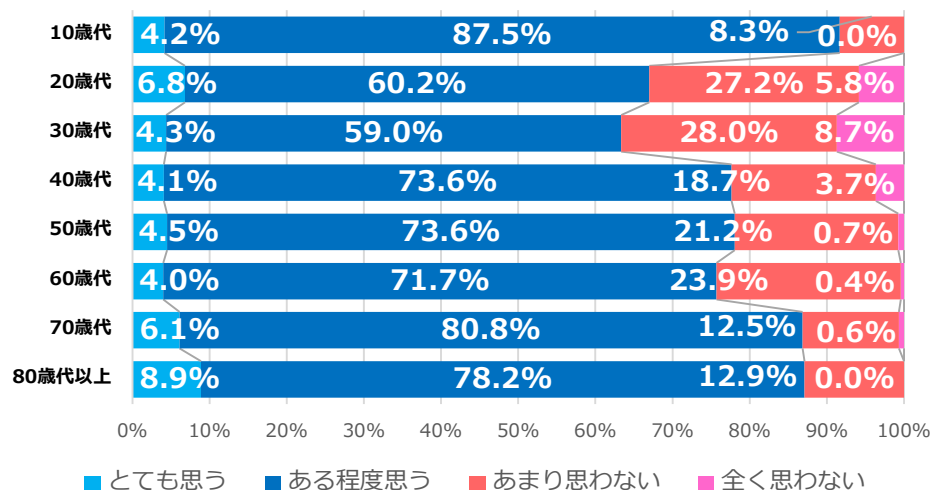
安心して子育てができる地域であると思いますか

n = 1,489



小田原市が安心して子育てができる地域であるかどうかに対して、「とても思う」、「ある程度思う」が約8割、「あまり思わない」、「全く思わない」が約2割であり全体的には安心して子育てができる地域であると感じていることがわかります。

安心して子育てができる地域か（年齢別）

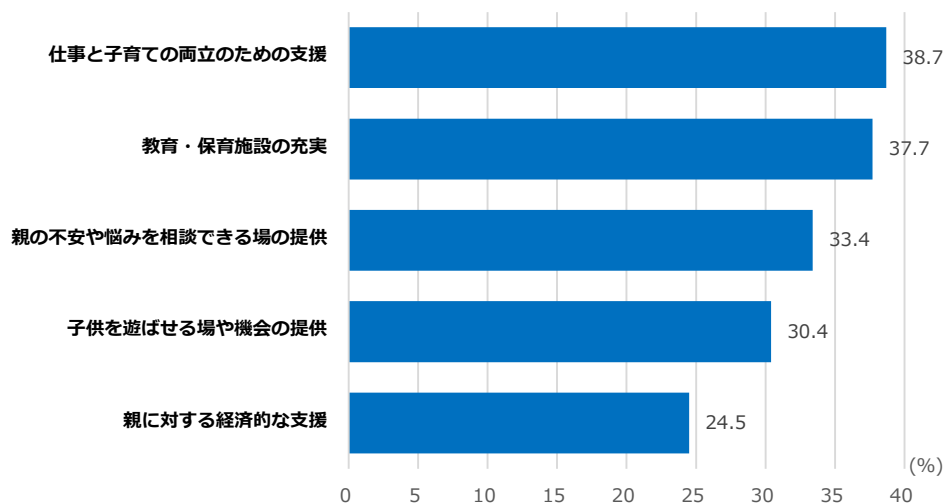


回答者の年齢別にみると、全ての年代で「ある程度思う」の割合が最も高いですが、実際に子育てをしている人の割合が高いと思われる20代、30代では「あまり思わない」「全く思わない」の割合が他の年代より1割ほど高くなっています。

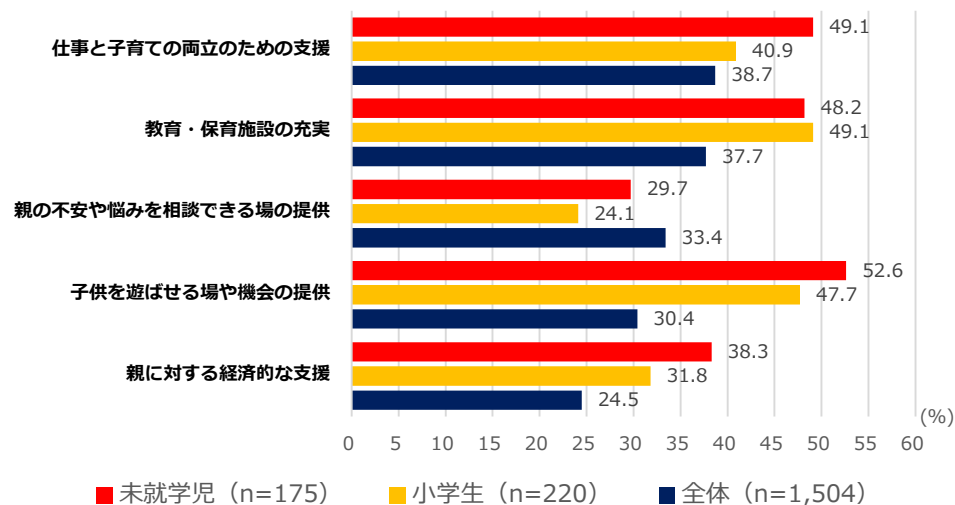
子育て環境に求められるもの

子育てがしやすいまちになるために必要な施策

n = 1,504



子育てがしやすいまちになるために必要な施策(家族構成別)



小田原市が「子育てがしやすいまち」となるために必要だと思う施策について、全体での上位3つは「仕事と子育ての両立のための支援」(38.7%)、「教育・保育施設の充実」(37.7%)、「親の不安や悩みを相談できる場の提供」(33.4%)となっています。

家族構成別にみると、二世帯同居（回答者とその子どもが同居している）世帯で「子供を遊ばせる場や機会の提供」と答える割合が全体に比べ高くなっています。

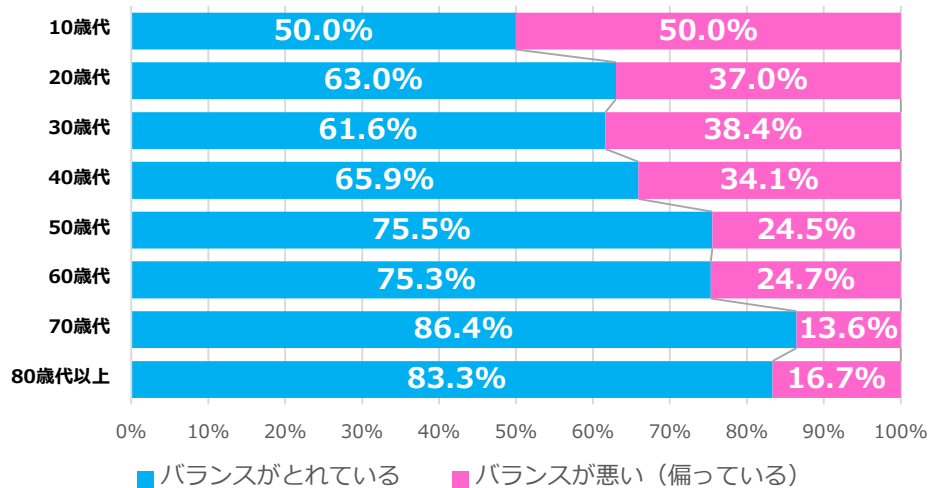
特に未就学児と小学生のいる世帯の回答割合が高く、実際に子育てをしている割合が高いと思われる世帯は「子供を遊ばせる場や機会が足りない」と感じていることがわかります。

D あなたの暮らし（各施策）について

ワーク・ライフ・バランスの向上について

ワーク・ライフ・バランスが取れているか

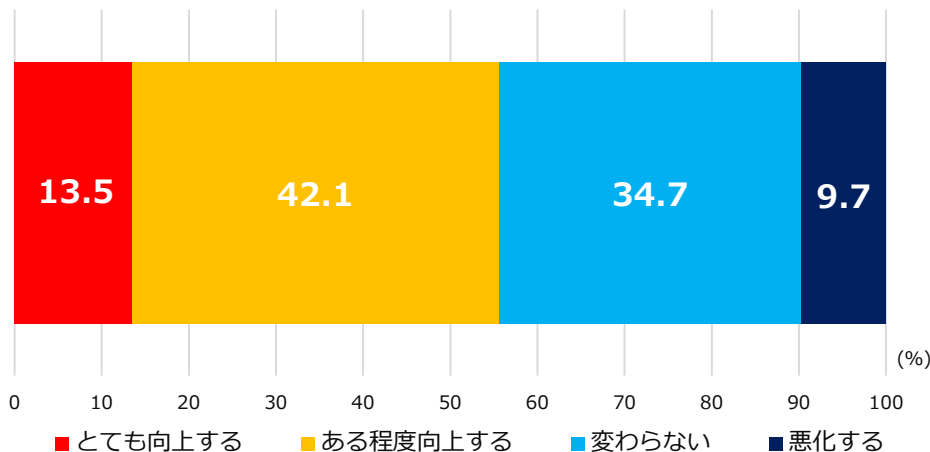
n = 904



ワーク・ライフ・バランスについて、「バランスがとれている」という回答は、全体で約7割ですが、年齢層が高くなるにつれてやや増加している傾向にあります。

「オフィス等へ通うことのない働き方を実施することで、ワーク・ライフ・バランスが向上すると思いますか」

n = 862



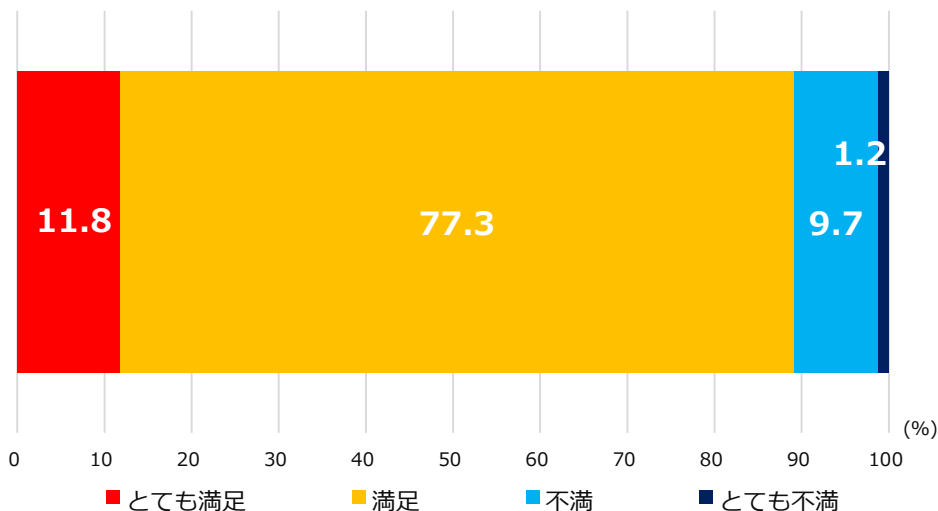
テレワークや在宅勤務の実施状況について、約7割の人が「未実施かつ未検討」と答えました。

しかし、全体の半数以上は、オフィス等へ通うことのない働き方を実施することで、ワーク・ライフ・バランスが向上すると答えており、テレワークや在宅勤務など新しい働き方は市民からの期待値が高いことがわかります。

自然環境への満足度

身の回りの自然環境に満足していますか

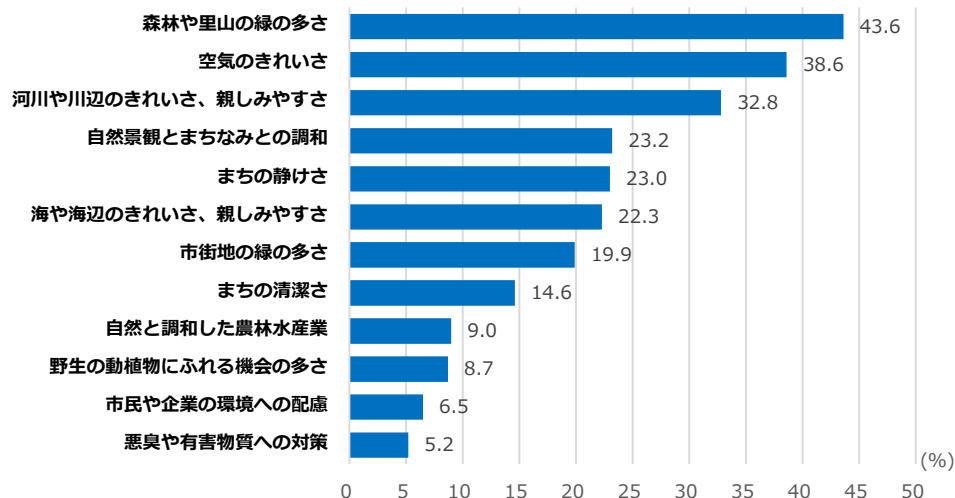
n = 1,509



「身の回りの自然環境に満足していますか」の問いに対して、約9割の市民が、小田原市の自然環境に満足していることがわかります。

自然環境に対する満足度の理由

n = 1,490



その理由としては、「森林や里山の緑の多さ」（43.6%）「空気のきれいさ」（38.6%）を選んだ人が多いです。

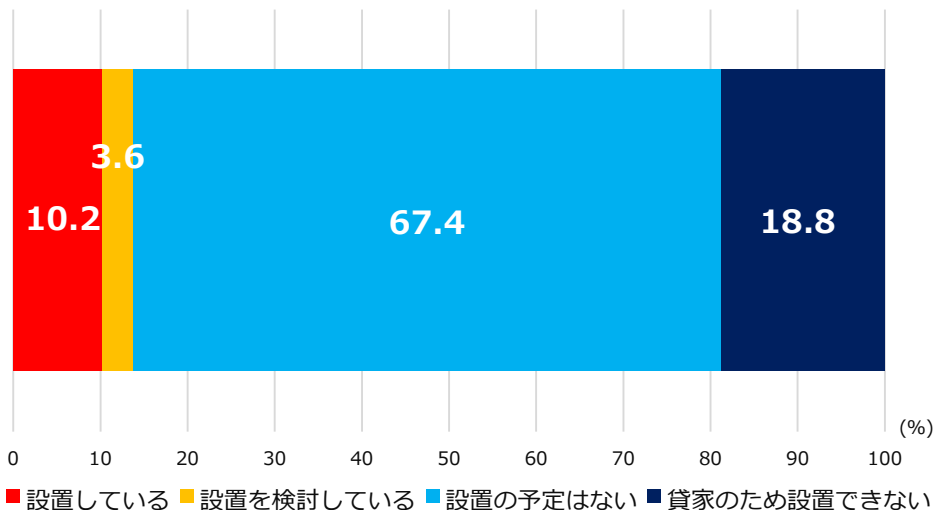
小田原市が有する自然環境の持つポテンシャルに対しては市民も認識していることがうかがえます。

D あなたの暮らし（各施策）について

再生可能エネルギー施策について

太陽光発電設備を設置していますか

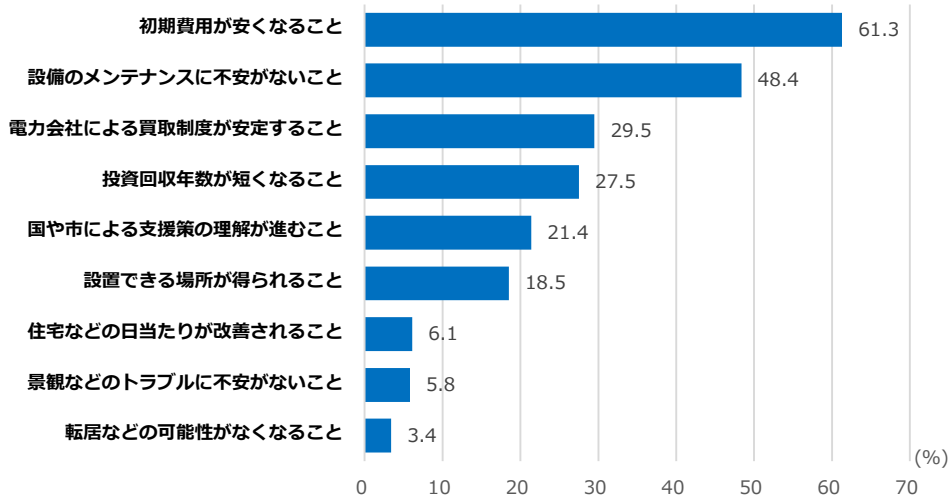
n = 1,538



太陽光発電設備について、現在設置している人は約1割、設置を検討している人を合わせても2割に満たない状況であり、貸家のため設置できない人を除いて、7割近くの方は「設置の予定はない」と回答しています。

「どのような条件であれば設置を検討しますか」

n = 1,008



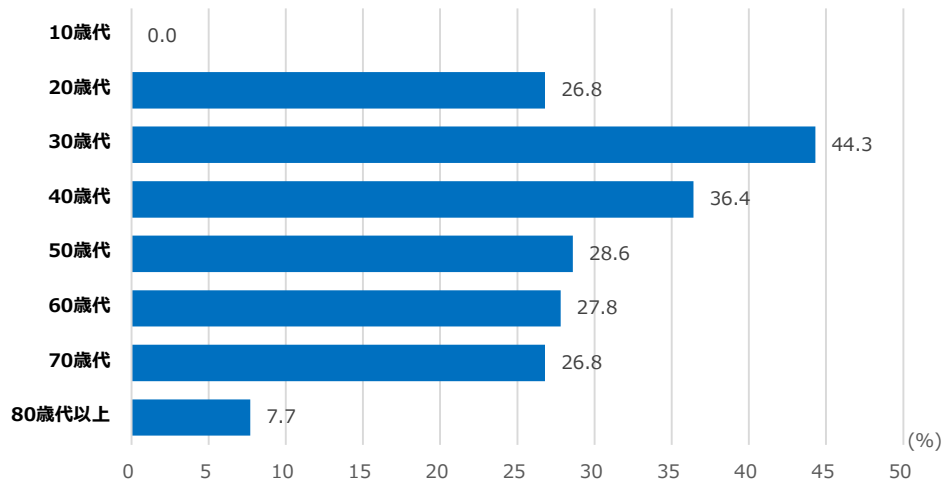
「設置の予定はない」と回答した人の設置する条件として、費用に関する要因となる「初期費用が安くなること」と「設備のメンテナンスに不安がないこと」が上位を占める結果となりました。

今後、太陽光発電設備の設置件数を増加させるためには、これらの課題をクリアする必要があると推測できます。

公民連携に対する意識

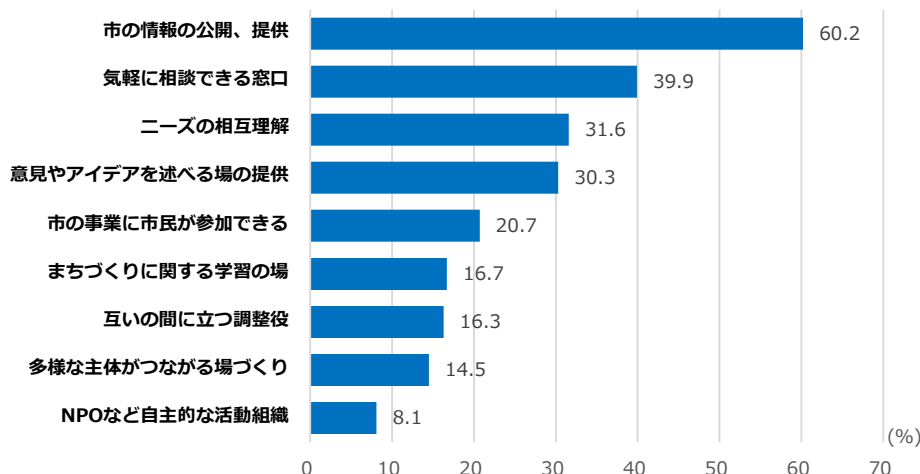
「市との協働などによる全般的なまちづくり」であれば参加し

たい（年齢別）



市民と行政が共にまちづくりを進めるうえで何が必要か

n = 1,489



市の魅力向上や生活課題の解決に向けた活動をする機会について、約5割が「内容により参加したい」と回答しており、「市との協働などによる全般的なまちづくり活動」へは約3割が参加したいと回答しました。年齢別では、30歳代と40歳代の割合が高かったです。

公民連携を進めるために必要なことについて、約6割が「市の情報の公開、提供」と回答しており、次いで約4割が「気軽に相談できる窓口」と回答しました。

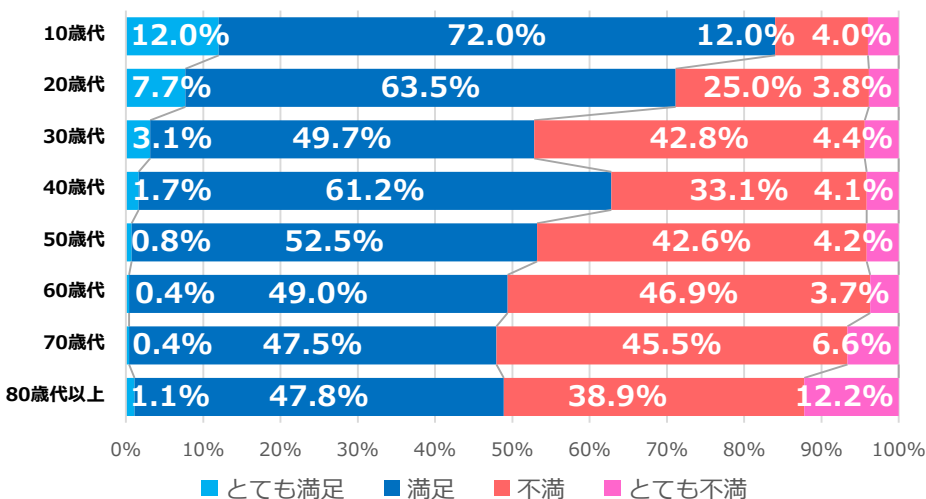
「市の情報の公開、提供」について、30歳代を除いて、年代が上がるにつれて回答率が増加する傾向にあります。30歳代は、他の年代より回答率が高く（60.6%）、重要視されていることがわかります。

D あなたの暮らし（各施策）について

行政サービスのデジタル化

「行政サービスのデジタル化の現状に対する満足度」

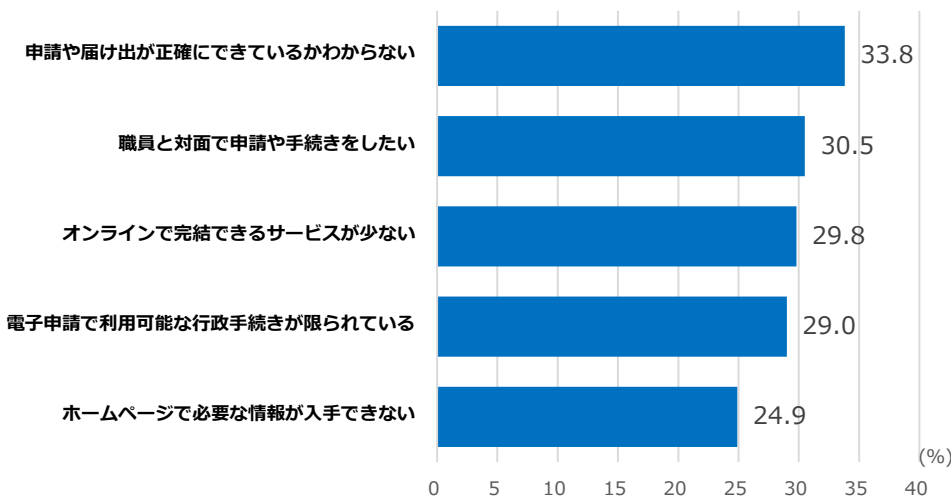
n = 1,332



行政サービスのデジタル化の現状について、全体としては約6割が満足、約4割が不満と回答しています。年齢別では、10-20歳代では約7割が満足している一方、30歳代や50歳代以上では満足の割合が5割程度にとどまっています。特に80歳代以上では約1割が「とても不満」と回答しています。

デジタル化に対して不満を抱く理由

n = 642



不満を感じている理由として、「申請や届け出が正確にできているかわからない」、「オンラインで完結できるサービスが少ない」などが多く、特に30-40歳代でこの理由を回答した人が多いです。

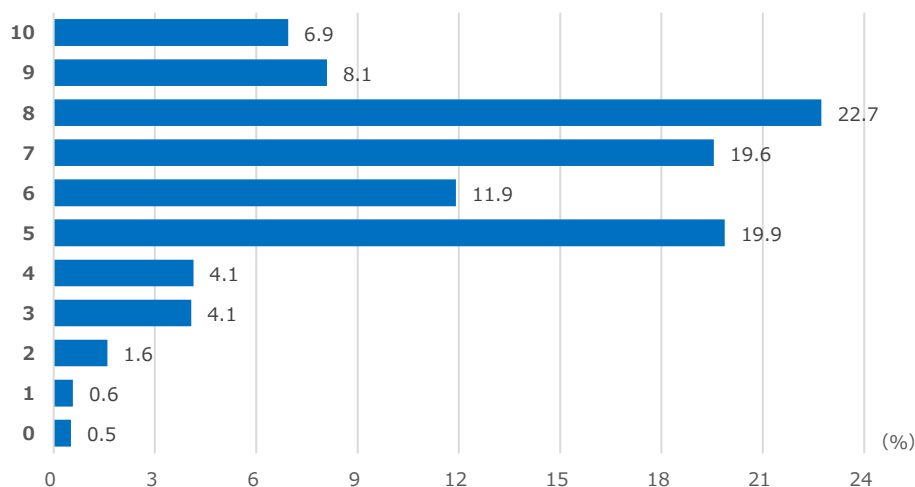
また、70歳代については「職員と対面で申請や手続きをしたい」が顕著に多かったです。

E 市民の幸福感について

世代による幸福感を判断する基準の違い

あなたはどの程度「幸せ」だと感じていますか。

n = 1,570

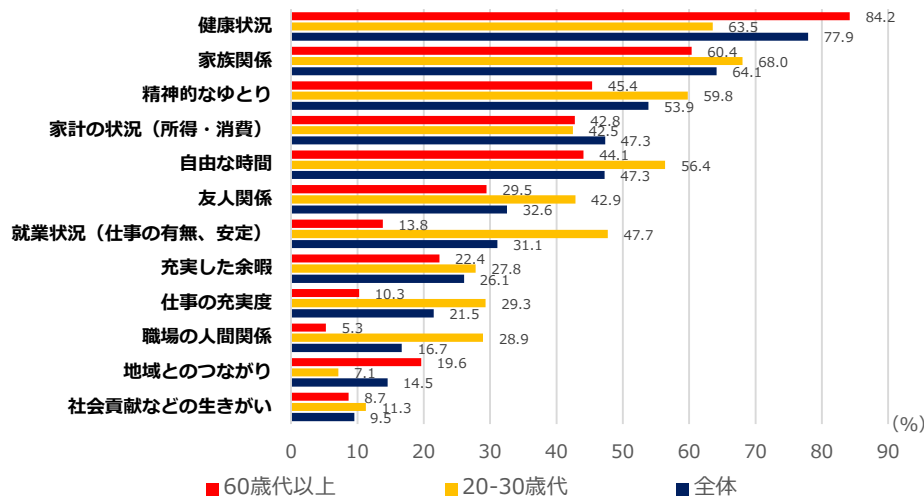


「回答者がどの程度『幸せ』だと感じているか」について、「8点」が22.7%で最も多く、約7割の人が、6点以上の点数にしています。

また、性別や年齢、居住地域など、回答者の属性によって幸福度の点数に大きく差異が出たものはありませんでした。

幸せを判断する際に、重視した点は何ですか。

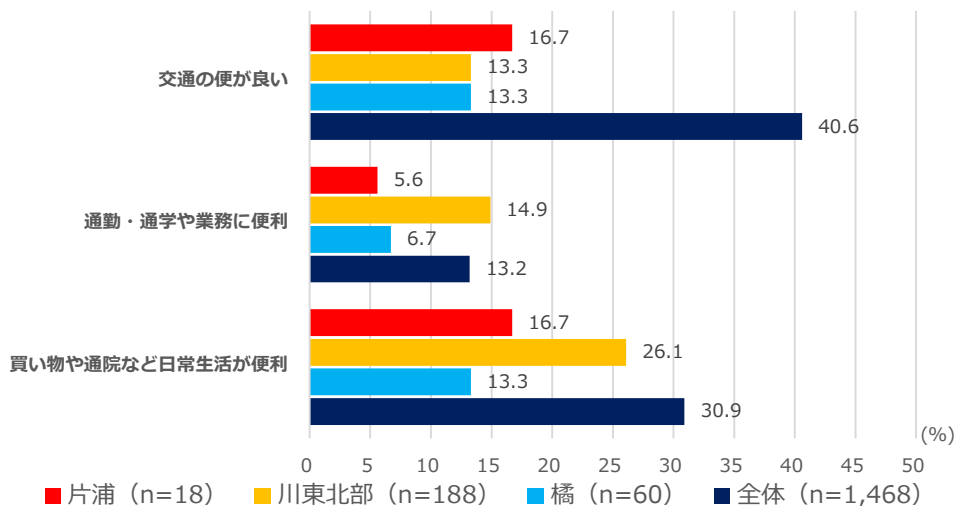
n = 1,576



また、「幸せを判断する際に、重視した点」を20-30歳代と60歳代以上とで比較すると、20-30歳代がより重視しているのが「精神的なゆとり」や「自由な時間」、「友人関係」、「就業状況」で、60歳代がより重視しているのが「健康状況」、ともに重視しているのが「家族関係」、「家計の状況」などでした。

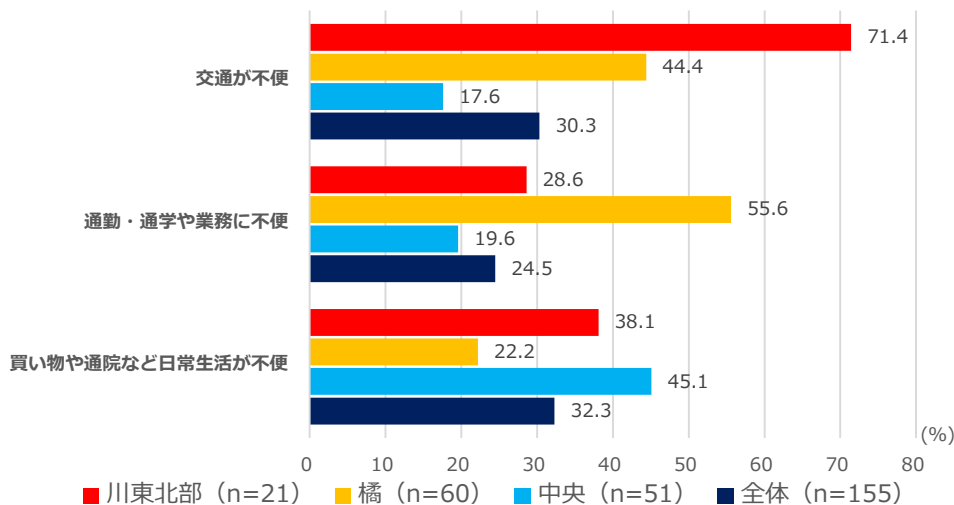
地域別にみた交通の便に対する意見

小田原に住み続けたい理由（地域別）



問15で「ずっと住み続けたい」「当分住み続けたい」と答えた人のうち、片浦地域、川東北部地域、橘地域では、「交通の便が良い」、「通勤・通学や業務に便利」、「買い物や通院など日常生活が便利」と答えた人の割合が全体平均に比べて低くなっており、これらの地域では交通の利便性に対して好印象ではないことがわかります。

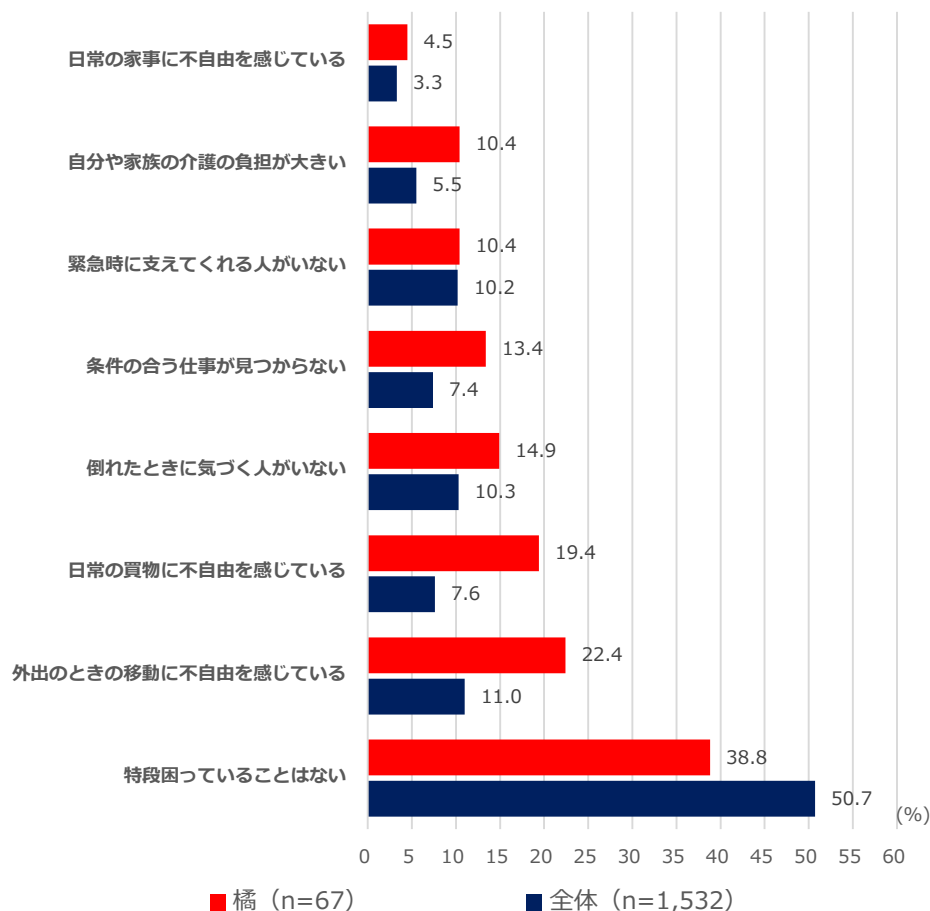
小田原から転居したい理由（地域別）



問15で「いずれ転居したい」「すぐに転居したい」と答えた人のうち、川東北部地域、橘地域では、「交通が不便」、「通勤・通学や業務に不便」と答えた人の割合が全体平均と比べて高いです。また、中央地域では、「買い物や通院など日常生活が不便」は45.1%で、全体平均(32.3%)に比べて高くなっています。

橘地域の住民が他の地域に比べて不便に感じている点

日常生活で困っていることはありますか



問22の「あなたは日常生活で困っていることがありますか」に対して、橘地域では他の地域に比べて「特段困っていることはない」と答えた割合が低く、他の回答の割合が高かったです。

なかでも、「外出のときの移動に不自由を感じている」、「日常の買い物に不自由を感じている」という回答は、全体より10ポイント以上多く、日常的な移動の面で不便に感じていることがわかりました。

◇ その他の分析

居住意向に関する分析について①

問15「今後も小田原市に住み続けたいですか」に対して、性別、職業、世帯収入、年齢、若者活躍、幸福度の項目から分析を実施しました。

◆グループ①（若者活躍4点以上）

	比率	転居意向	年齢	幸福度	職業
A	1%	77%	10歳代	5点以下	会社員
B	1%	36%			会社員以外
C	6%	15%		6点以上	
D	85%	6%	20歳代以上		

◆グループ②（若者活躍3点以下）

	比率	転居意向	職業	世帯収入	職業	年齢
E	1%	78%	会社員、専業主婦（夫） 自営業・個人事業主 パート・アルバイト、学生	1000万円未満	自営業・個人事業主	30歳代以下
F	1%	31%			パート・アルバイト、学生	40歳代以上
G	1%	16%			会社員、専業主婦（夫）	
H	2%	58%		1000万円以上		
I	2%	9%	会社役員、公務員、無職			

◇ その他の分析

居住意向に関する分析について②

転居意向が強い人には、以下の傾向が見られます。

- ① 若者活躍4点以上、10歳代、幸福度5点以下、会社員
- ② 若者活躍3点以下、30歳代以下、世帯年収1000万円未満、自営業・個人事業主、パート・アルバイト、学生

分析の結果より、以下の結果が得られました。

- 性別・婚姻状況の影響は見られない
- 年代は若年のほうが転居意向が高い傾向
- 職業は会社員が転居意向が高い傾向
- 年収の差はあまり見られない
- 幸福度が低いと転居意向が高い傾向